

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立有明中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した指導方法の工夫と実践に関しては、道徳における対話活動を各教科に広げることができ、その成果も少しずつ現れつつある。 ・自ら考え正しく判断し、他を思いやる行動ができる生徒の育成に関しては、道徳における学習、各行事における体験活動により、より良い変容を見せてくれた生徒が多かった。 ・特別支援教育・教育相談推進体制の構築に関しては、特別支援学級より専門家を招き、該当生徒への支援に活かすことができた。また、教育相談週間を年2回実施したり、進路相談や学習相談を適宜実施したりして、個別の相談時間を設定し、支援を行った。 ・部活動マネジメント力の向上に関しては、コロナ禍の中、各種大会が中止・規模縮小となったが、各顧問が様々な指導方法の工夫改善を実施し、生徒たちは部活動に対する情熱を維持したまま活動を続けることができた。 ・学校・家庭・地域・小学校とのつながりを大切に「地域と共にある学校づくり」に関しては、「新入生説明会」「ようこそ先輩」「先輩に学ぶ」など、地域や小学校との交流活動を実施することができ、地域とのつながりを深めることができた。
------------------	---

2 学校教育目標	志をもち、自ら学び、共に高め合い、逞しく生き抜く生徒の育成
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 「志」を育む教育の推進 2 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した学力向上の推進 3 集団の中で思いやりの心を育み、自己肯定感を高める心の教育の充実 4 生徒指導と生徒活動を両輪とした活気ある学校づくり 5 特別支援教育と教育相談の充実による安全・安心で居場所のある学校づくり 6 学校・家庭・地域・小学校との連携を大切に「地域とともにある学校づくり」 7 通ってよかった、通わせてよかった、動めてよかったと思う有中の実現
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師65%以上	・職員研修等で、マイプランの確認と取組の促進を図る。
	○「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した学力向上の推進	○授業に主体的に取り組む、自分の考えを表現できた生徒の割合を80%以上にする。	・「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について、各教科で明確化し、実践する。	A	・「主体的・対話的な学びに取り組んでいる」というアンケートに対し、職員の96%が主体的に学習に取り組む工夫をしていると回答し、生徒の93%が対話活動によって学びを深めていると回答している。	A	・生徒と職員との考えや思いが、「主体的・対話的な学び」を通して双方で伝わっていると考える。学校行事からも、その成果が感じられた。今後も継続して取り組んでほしい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒の割合を80%以上にする。	・学期ごとに道徳の授業に関するアンケート(振り返りシート)を実施する。 ・職員室に道徳コーナーを設置し、授業の充実を図る。	A	・73%の生徒が道徳の授業に対して肯定的な回答をした。さらに、道徳のテーマについて深く考えられた生徒が9割以上、考えたことをきっかけに自身の行動を見直した生徒が8割以上であった。	A	・道徳的な考えは、頭では理解していてもなかなか行動に移せないことも多い。授業で改めて学ぶことで再確認できたのではないだろうか。実践につながる道徳をお願いしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校は安全で、安心して生活できる学校だと思いますか。」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合を80%以上にする。	・学校生活アンケートを定期的に行い、学年、学校で情報共有をすることで、複数の職員で多面的、多角的に生徒の支援をする。	B	・「自分の困りごとや悩みなどについて、相談できる先生がいる。」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合が約68%で、多くの生徒は、相談できる状況である。次年度は、更に聞き取りや声かけの質を高めることで安心・安全な学校に近づける。	B	・自分の困りごとや悩み等について、必ずしも担任の先生ではなくても良いことは、良かった。傾聴を大切に、今後も継続して取り組んでほしい。
	○生徒指導と生徒活動を両輪とした活気ある学校づくり	○「学校生活が楽しく充実している」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合を80%以上にする。	・生徒に番組と役割を与え、それを承認する「開発的生徒指導」の充実をさせる ・生徒の自治意識を高め、主体的によりよい学校づくりに参画するための生徒活動の充実をさせる	A	・「学校生活が楽しく充実している」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合を92%であった。 ・生徒の自治的風土が徐々に出来つつあり、活気ある学校に近づいている。	A	・学校行事での子どもたちの様子から、学校生活で多くの学びがあったことを確認できた。アンケートの結果から、90%を超える生徒が楽しいと思えることはすばらしい。
	●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	・早寝・早起き・朝ごはんの充実を、保健指導、食に関する指導、その他健康教育を通し向上させる。	A	・「健康であるために運動・食事・睡眠は大切にした生活をしている」に肯定的な回答をした生徒は93%であり目標を達成できた。	A	・食生活は、幼児期より学ぶ機会が多く、よくできていると考える。中学生になると早寝早起きの習慣ができなくなっている生徒が多くなっているのが今後の課題と考える。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	・日々の業務内容の見直しを行い、業務改善を図る。業務改善のための話し合いの場を設定する。 ・各行事ごとに、振り返り(アンケート)を実施し、次年度に向け、取組の見直しを行う。	B	・職員の業務改善に関するアンケートでは、83%の職員が改善が進んでいると答えている。実際に時間外勤務時間は、年間を通して減少できた。しかし、教育委員会規則に掲げる上限は遵守できていない。今後も継続して改善に取り組んでいく。	B	・教育現場からの業務改善・効率化は重要なこと。時間に余裕を持って生徒に接してもらいたい。そのためには、個々の意識よりも全体の意識改革が必要である。働きやすい職場を目指してもらいたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○「志」を育む教育の推進	○3年間を見通したキャリア教育の充実	○将来の夢や希望をもっている生徒の割合を85%以上にする。	・キャリア教育を充実させることによって、生徒が主体的に「自らの行き方」を考え進路決定できるようにする。 ・系統的なキャリアパスポートの立案と適切な実施
○特別支援教育と教育相談の充実による安全・安心で居場所のある学校づくり	○生徒一人一人の特性や個性に応じた共通理解と組織的な支援 ○外部機関との連携を図った組織的な対応	○「学校生活が楽しく充実している」と感じる生徒の割合を80%以上にする。	・週1回教育相談部会を開催し、生徒の情報交換と支援の手立てを話し合い、職員へ提案する。 ・月に1回は、特別支援学級所属の生徒についての情報交換及び支援の方法を確認し、共通理解のもと学習支援を行う。	A	・来年度の授業の持ち方について担当教諭で話し合いを持ち、共通理解をすることができた。 ・毎週の相談部会では、支援の必要な生徒について情報交換し、具体的な支援についての共通理解に努めた。生徒の評価では、「特性に応じた支援をしてくれる」と思っている生徒の割合が、9割以上であった。	A	・先生方全員で部会等を通して、生徒一人ひとりに合わせた支援の仕方を共通理解して対応されているので、生徒の心身の安定につながっていると考える。今後も引き続き継続してもらいたい。
○学校・家庭・地域・小学校との連携を大切に「地域とともにある学校づくり」	○「地域貢献」「学校支援」「小中連携」「小小連携」の推進体制の構築	○地域・小学校・家庭との交流・奉仕活動等を通して、「充実した」「学ぶことがあった」と答える生徒の割合を80%以上にする。	・総合学習において、地域の有識者の方を招くなどして、地域連携の構築を図る。 ・地域の活動や小学校の行事に参加したり、ボランティア活動に取り組んだりしていく中で、「地域貢献」「小中連携」等の構築を図る。	A	・外部の指導者を招いての学習や地域清掃などの活動について、アンケートの結果から9割近くの生徒・職員が充実しているとの回答を得た。ただし、保護者に関しては、コロナ禍の活動でもあったためか、活動の様子が伝わっていないこともあり、積極的に伝えていく必要があると感じた。	A	・地域の事を知ることは大切なこと。また、保護者との連携も必要不可欠だと考える。閉校まであと2年。「地域と共に」を大切にしたい学校経営に取り組んでほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上では、校内研テーマ「主体的な教育活動の在り方」に伴い、授業方法の改善に取り組んできた。生徒・職員ともに改善の効果を生徒の活動の様子やアンケートの結果から実感している。今後も継続して取り組むことで、子どもたちが充実感や、達成感を味わい、深い学びへとつながっていくと考える。 ・心の教育では、いじめの早期発見・早期対応のために体制の充実を図ってきた。また、アンケートの結果から、生徒の学校生活の充実度は高い。反面、不登校の生徒数が多いことから、教育相談との連携を充実させ、個別の支援に継続して取り組んでいく。 ・「志」を育む教育の推進では、アンケートの結果から、学年が上がるにつれて夢をもっている生徒の割合が高くなっていることから、継続的な取り組みの効果があると考えられる。今後はさらにキャリアパスポートの活用を充実させていく。 ・業務改善・働き方改革では、研修会や業務の振り返りを継続して行ったことで、時間外勤務時間の削減につながった。アンケートの結果では83%の職員がその効果を実感している。しかし、改善の余地はまだあり、今後も継続して取り組んでいく。
----------------	--